



平成二十九年六月二十日

皇紀2677年
(西暦2017年)
第148号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

ずっと空梅雨模様でしたが

本格的な梅雨に突入かな？

これを書いているのは六月二十日です。

九州北部地方に「梅雨入りしたとみられる」という発表がなされて以来、ほとんど雨が降らず、全くの空梅雨模様でした。しかし、そろそろ梅雨前線も北上を始めるようで、本格的な梅雨に入りそうです。

こうなってくると、気になるのが大雨による災害などの危険性です。昨今、短時間に大量の雨が降るような傾向となっています。そういった雨は、地盤にしみこむ前に地表付近で飽和状態となり、土砂崩れなどの災害を引き起こします。また、急な川の増水なども起こしやすく、河川の氾濫などの危険性も高まります。

そして、急激な天気の変化は強い風を伴うことも多く、突風なども起こりやすくなります。

これから雨の季節です。災害から身を守るためにも、気象庁並びに気象台などが発表する防災情報、また行政が発信する情報などを防災に役立てるようにしましょう。

神社うんちく帖

今回もまた引き続き、神社のあれやこれやを紐解いていく「神社うんちく帖」を書いてみたいと思います。前回は「神社の始まり」というお題で、どういう流れで神社という建物がしつらえられたかを書きましたが、今回は少し変わって「人類史のお話」となります。

「氏神」と「産土神」の違い ※その一

いまでは同じ意味に使われていますが、本来は少し意味が違います。

◆「血縁」と「地縁」の始まり

人間はもともと、他の多くの動物と同じように「群れ」を作る生き物です。それは過酷な自然環境の中で、より効率的に生存していくために遺伝子に組み込まれた「生物としての本能」としての行動です。

まず最初に発生するのは、「生存に関わる共同や連帯」により繋がった小規模集団です。

はるか数十万年前、旧石器時代に火を手にした人類の祖先は、移動をしながら狩猟採集を行い、道具を発達させてきました。

時代が下り、やがて一定地域に定住し始め、人類は旧石器時代から新石器時代へ移行しました。これがだいたい一万数千年くらいです。

そこでは「血縁」が重視されてきました。血縁関係の人間は、それぞれが食糧の確保や道具作りなどを行い、ひとつの共同体として機能していました。

その「血縁」による結びつきは、「族长」を中心とした「一族」として構成され、やがて「一族の神」が祀られるようになりました。

農耕や牧畜などが行われるようになり、一定地域への定住がさらに進むと、集団の規模はより大きくなり、血縁を超えた共同体として機能しはじめ「農村集落」が発生します。そして、同じ土地に住む者としての「地縁」が生まれます。

その「地縁」による結びつきは、「首長」を中心とした「農耕共同体」として構成されます。ここでは、住まう土地の豊穡と安定を願い、「土地の神」を祀るようになります。

これは、世界のどの地域にも同じように見られる移り変わりです。

日本においては、縄文時代から弥生時代にかけて、同じことが起こりました。
(次号へ続きます)

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。